

対象は、区域あるいは亜区域塞栓術を行った肝細胞癌129結節（初回治療例75結節，切除後再発例54結節）である。検討は腫瘍径および血管造影所見（腫瘍辺縁の性状，腫瘍濃染の均一性，腫瘍濃染の程度）と治療効果の関係について行った。効果判定はCTにて行い1年経過しても viable lesion を認めない結節を完全壊死結節とした。

結果は，初回例では20%（15結節），再発例では44%（22結節）が完全壊死となり再発例の方が完全壊死率は高かった。腫瘍径と完全壊死率の関係は，初回例では腫瘍径20～30mm，再発例では腫瘍径10～20mmにおいて最も完全壊死率は高かった。また血管造影所見としては，辺縁明瞭，均一濃染，強濃染のうち2つ以上の所見を有する時，完全壊死率が高いことが明らかとなった。

食道アカラシアに合併した表在癌の1例

（獨協医科大学 第二外科）

青木 洋・門馬公経・門脇 淳・
福富 京・今田俊哉・小暮洋暉

症例は70歳の男性で，主訴は嚥下困難であった。32歳頃から時々嚥下困難が出現し，約10年前から症状が増悪し，1996年3月には食事摂取不能となり近医を受診した。上部消化管造影検査にてアカラシアと診断され，精査加療目的で当院内科に入院した。上部消化管内視鏡検査では，拡張した食道に食物残渣と切歯列から25～29cmのIulm，2時方向を中心に0-IIc病変を認めた。生検で扁平上皮癌が認められ，食道アカラシアに合併した表在癌と診断された。手術目的で転科し，食道抜去術を施行した。切除標本では，poorly differentiated squamous cell carcinoma, m3, ly1, v0, ie(+)であった。食道アカラシアの癌合併は高率とされるが，未だに早期に発見される症例は少なく，若干の考察を加え報告した。

食道表在癌227例の治療成績

（都立駒込病院 外科）

葉梨智子・吉田 操

対象の内訳は，上皮内および粘膜固有層に留まるm1，2癌の114例，粘膜筋板からsm浅層までのm3，sm1癌46例，sm2，3癌67例である。m1，2癌では83%が内視鏡的粘膜切除術（以下EMR）で治療され，sm2，3癌は全例食道切除が行われている。

①粘膜癌は，大部分が局所治療で根治可能である。EMRは粘膜癌，特にm1，2癌において最も優れた治療法である。②m3，sm1癌は，低頻度ではあるがリンパ

節転移を認めるため，EMRを行った症例には合併療法を行い，良好な成績を得ている。③sm2，3癌は，リンパ節転移率が高いが十分な郭清により比較的良好的結果が得られている。今後は，リンパ節転移高度例，脈管侵襲高度例に対する集学的治療の工夫が必要であると考えられた。

当院における *H. pylori* 除菌療法

（東京女子医大 成人医学センター）

北村容子・

橋本 洋・秋本真寿美・横山 泉

〔目的〕 *Helicobacter pylori* (HP) 感染に対し，除菌療法を施行した。除菌療法1カ月後・6カ月後に除菌判定を，従来法（鏡検法・培養法・CLOテスト）と13C尿素呼気テスト(UBT)で行った。従来法とUBTを比較し，UBTの意義・有用性・閾値について検討した。

〔方法〕除菌療法は，2剤・3剤・4剤療法で行い，除菌判定は除菌療法1カ月後に，経過観察は6カ月後に，従来法とUBTで施行した。

〔結果・考察〕除菌療法1カ月・6カ月後の従来法とUBTの検出率は，従来法陰性・UBT陽性が最も多く，UBTの感度の良さを示していると思われた。UBTは，簡便で侵襲が少なく感度が良いことから，除菌後の判定・経過観察には有用と考えられた。

巨大平滑筋腫を合併した胃絨毛腺腫の1例

（府中医王病院 消化器科） 有泉俊一・

島田幸男・新井俊男・都筑康夫

症例は83歳女性で，主訴は，めまい，息切れ，黒色便である。高度な貧血と上腹部腫瘤を指摘され，上部消化管検査で体上部小彎の巨大な出血を伴う粘膜下腫瘍と，胃穹窿部に乳頭状に増殖した亜有茎性の隆起性病変を認めた。粘膜下腫瘍の生検診断はつかず，亜有茎性腫瘍の生検病理結果では高分化型腺癌を伴った絨毛腺腫と診断された。絨毛腺腫の内視鏡的切除も考慮したが，粘膜下腫瘍の出血が内視鏡的に止血できず，また，悪性疾患である可能性が高いことから開腹手術を施行した。摘出標本では体上部小彎に約8.0cmの表面結節状の粘膜下腫瘍を認め，また穹窿部には約4.0cmの亜有茎性の乳頭状腫瘍を認めた。病理組織所見では，粘膜下腫瘍は紡錘型の核と好酸性腺維性胞体を有する平滑筋腫と診断され，乳頭状腫瘍は絨毛腺腫と診断された。

胃絨毛腺腫は胃隆起性病変の中でその発生頻度は極めて低く稀な疾患である。文献によると発生頻度は胃ポリープの0.5%であり，その80%が胃前庭部に発生